希　望

多治見市立笠原中学校
令和7年度　学校だより『希望』
第7号　令和7年9月26日(金)発行

Look aside（よそ見）

校 長　熊 﨑 健 一

みなさんもよくご存じの『GIGA スクール構想』については、この五年間で随分と定着してきたように思います。一番身近なこととしては、学習者用タブレット端末（本市では iPad）が一人一台貸与され、生徒は、学習場面のみならず、学校生活のあらゆるところで活用しています。直近のニュースでは、文部科学省が、次期学習指導要領（学校教育の拠り所）が小学校で全面実施される予定の2030年度から、デジタル教科書を紙同様に正式な教科書として導入する方向で調整していることが報じられました。本校でも、すでに一部の教科で試験的に導入していますが、数年後にはデジタル教科書が“標準装備”になっていく見込みです。お子さんの教科書を開いていただくと、あちらこちらに GR コードがあり、紙の教科書に活字で示された内容に関連して、さらに広がりや深まりをもたせる学習素材へとアクセスできるようになっています。子供たちが生きている・生きていく“高度情報化社会”においては、目的や課題に向かって情報を収集し、それらを整理・分析ながら問題解決に向かい、まとめたことを効果的に他者に向けて発信する力が求められていきます。デジタル教科書の導入も、これらの力を育むための手立てといえます。

さて、一方で、いわゆる“スクリーンタイム”の増加による生活習慣の乱れや、長時間画面を見続けることによる視力低下などの問題（健康被害）も顕在化しています。実際、生徒の学習の様子を見ていると、とても姿勢が悪くなっていることが分かります。背中と首が曲がり、iPad に顔を近づけて画面を凝視しています。過去に文部科学省が実施したアンケートでは、デジタル教科書やタブレット端末を使った授業の後に、目や首、肩に疲れや痛みを感じた生徒が半数近くに上るという結果も報告されています。また、以前ある眼科校医さんがこんなお話をされました。「子供の近視が急激に進んでいます。タブレット端末の影響も大きいと思います。使わないわけにはいかないのも分かりますが…。目の健康のためには、30分に一度、遠くの山を眺めるぐらいのことはさせたいのだけれど…。」

低下した視力を回復させるのは、なかなか困難です。タブレット端末とのよい付き合い方は、その機能や情報との出会い以外にも、かけがえのない自らの健康という側面からも考えていかねばなりません。私たちは、子供の頃「授業中によそ見をしない！」と注意されたものですが、現代においては、この“よそ見”も大切な活動になってきているのかもしれません。学校で使う iPad に限らず、家庭のタブレット端末、スマホ、テレビなども含め、それらとの付き合い方について話題にしたいものです。

～ 多治見市〖親育ち4・3・6・3たじみプラン〗親育ちコラム ～
『カラダの実感とスキンシップ』

低いところをくぐる時、自然に首を引っ込める。全力で走っていく先に人や物を見つけた時、ぶつかる手前で速度を落とす。体を傾けすぎた時、転倒する手前で傾きをもどす。私たちは、これらを半ば無意識に行います。それは、私たちが、自分の体の大きさや輪郭、傾き、力の入り具合等を、感覚として把握できているからです。

身体能力が高いのに、頻繁にケガをする。体力はあるのに、姿勢がなかなか保たれない。積極的でリーダーシップを発揮する反面、苦手な場面では「めんどう」「意味ない」等の言葉で、物事をあきらめてしまう。そうした様相を示す子の背景に、この感覚が育ち切っていない可能性があり、そうした「カラダの実感」を培う有効な方法は、信頼する保護者に抱きしめられることなのだと、若い日、ある心理学者の講演から学びました。

残暑も和らぎ、自然も、子供たちの心身も、豊かに実る秋が深まります。中学生にハグは抵抗があるかもしれません。しかし、発達の段階に応じた、家族との適切なスキンシップは、子供たちの「カラダの実感」と、家族との愛着を深め、自分だけの次の一歩に、その子が安心して挑戦できる体と心を培うと信じます。　　【教育推進課　家庭教育担当】